

**目標1**：住宅地域における夏の夜間の気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した**熱帯夜日数**※1を**2000年より3割減らす**。  
**目標2**：屋外空間における**既存のクールスポットの活用や創出**をすることにより、屋外空間における**夏の昼間の暑熱環境を改善**する。

※1 地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数：都市化の影響が少ない全国15地点のデータから算出した地球温暖化による影響と考えられる気温上昇分を除いて算出した熱帯夜日数

近年の状況

大阪の熱帯夜日数

熱帯夜日数の状況（大阪、豊中、枚方の3地点の観測熱帯夜日数の平均）を図1に示す。

- 2025年の熱帯夜日数の状況は68日であり、過去最も多い。
- 2025年の熱帯夜日数は、2024年から3日増加、2000年から28日増加している。

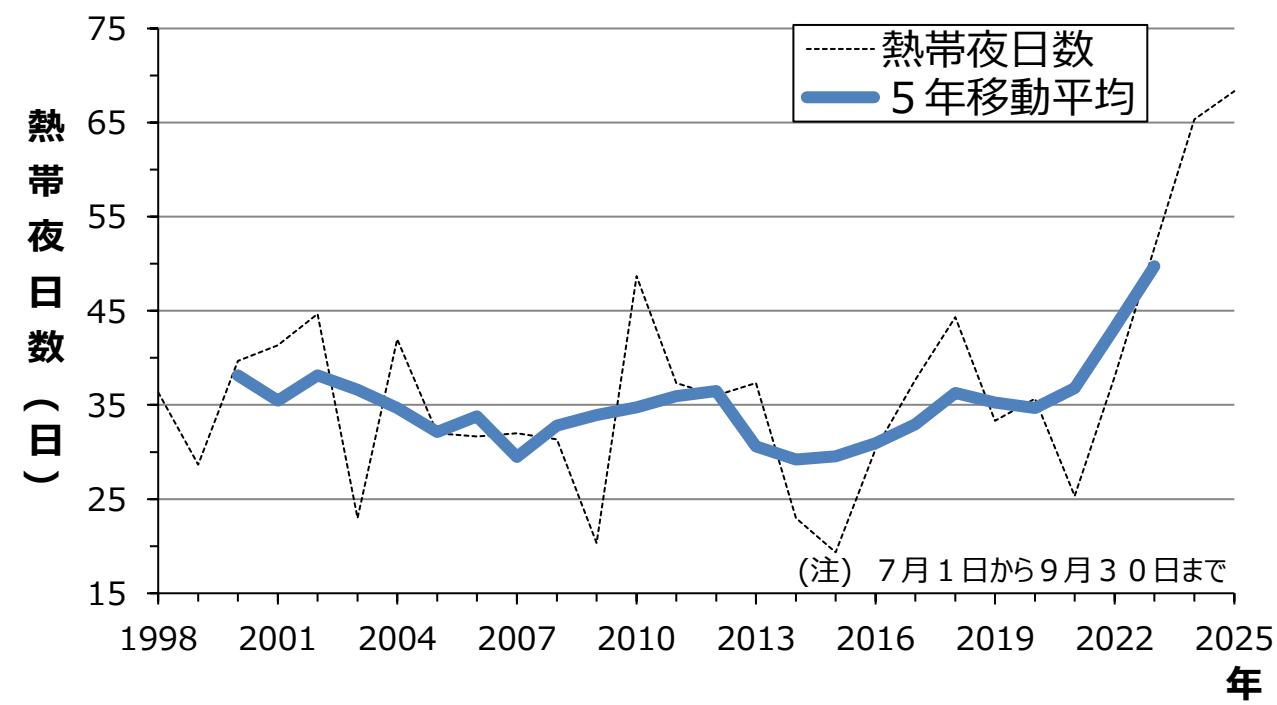


図1 年間熱帯夜日数の推移 (気象庁データより大阪府作成)

全国15地点の日最低気温平均

15地点：網走、寿都、根室、石巻、山形、銚子、伏木、飯田、彦根、境、浜田、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

都市化の影響が少ない全国15地点の日最低気温5年平均を図2に示す。

- 都市化の影響が少ない地域でも、近年上昇傾向であり、特に2018年以降上昇傾向である。
- 特に9月の日最低気温の上昇が顕著にみとれる。

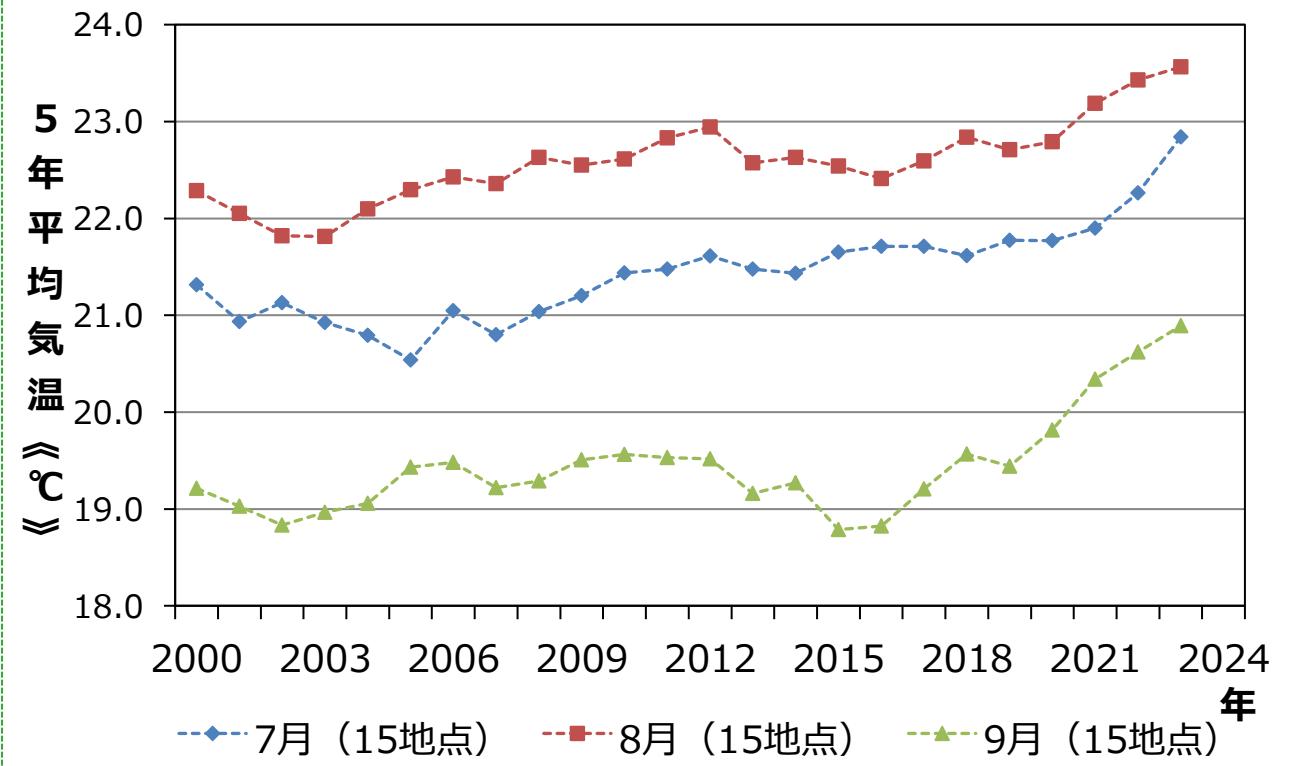


図2 全国15地点の日最低気温5年平均の推移 (気象庁データより大阪府作成)

## 目標 1 の進捗状況

### 1. 計画に基づく熱帯夜日数の状況

本計画の進行管理では、地球温暖化の影響を除外した7～9月における熱帯夜日数※<sup>2</sup>を用いている。

#### <地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数>

(5年移動平均値の回帰推定値による影響除外(計画進捗評価手法))

計画進捗評価手法を用いて地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数の比較を図3に示す。

- 2023年(2021～2025年の平均)の熱帯夜日数は40日で、2000年(1998～2002年の平均)の37日に対し、**3日増**であった。(2023年の除外温度:7月0.50℃、8月0.70℃、9月0.58℃)
- 計画進捗手法では、地球温暖化の影響を、都市化の影響の少ない全国15地点の5年移動平均値の直線回帰を用いて推定値を算出している。
- 都市化の影響の少ない全国15地点においても、近年(特に2018年以降)の気温上昇は顕著であり、回帰推定値を用いた方法では、地球温暖化の影響を除外しきれないことも考えられる。

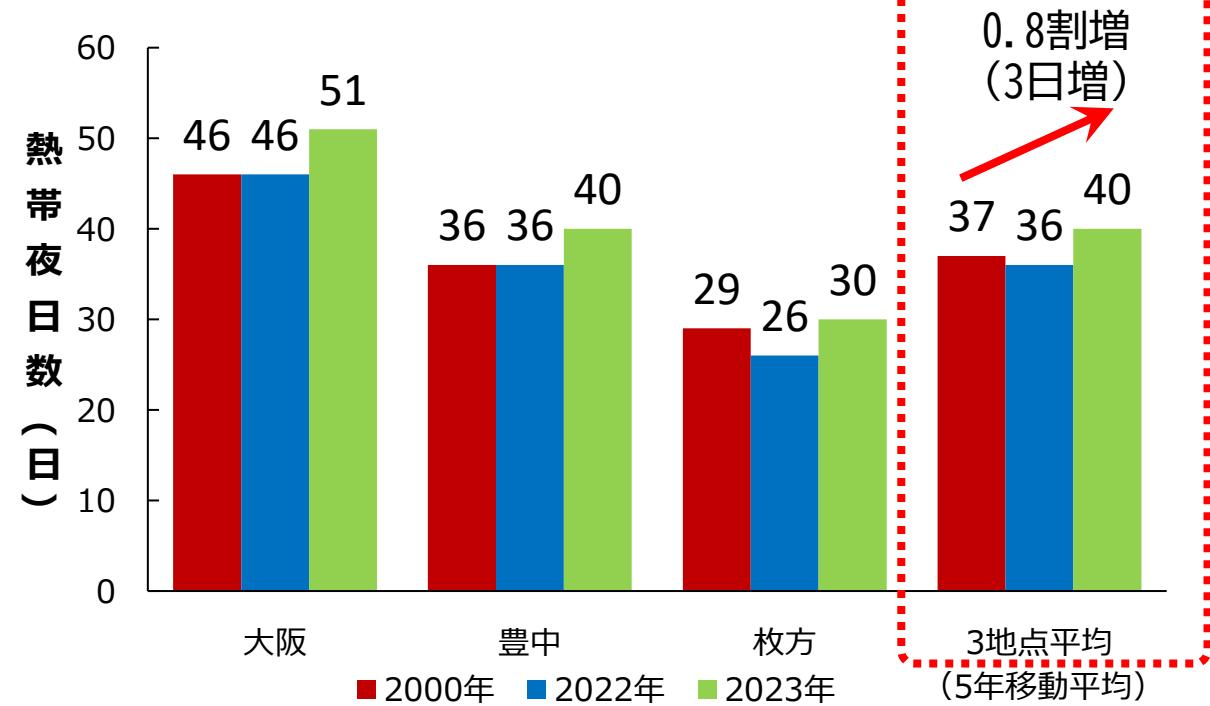


図3 地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数の比較  
(5年移動平均値の回帰推定値による影響除外(計画進捗評価手法))  
(気象庁データより大阪府作成)

※<sup>2</sup> 熱帯夜日数は、猛暑や冷夏といった年々の変動の影響を軽減するため、5年間の平均値を用いて評価

#### <参考>

2000年と2023年の5年移動平均値の差を地球温暖化の影響として除外した場合の熱帯夜日数(図4)

(2022年の除外温度:7月1.53℃、8月1.28℃、9月1.68℃)

- 2023年(2021～2025年の平均)の熱帯夜日数は26日で、2000年(1998～2002年の平均)の37日に対し、**11日減**であった。

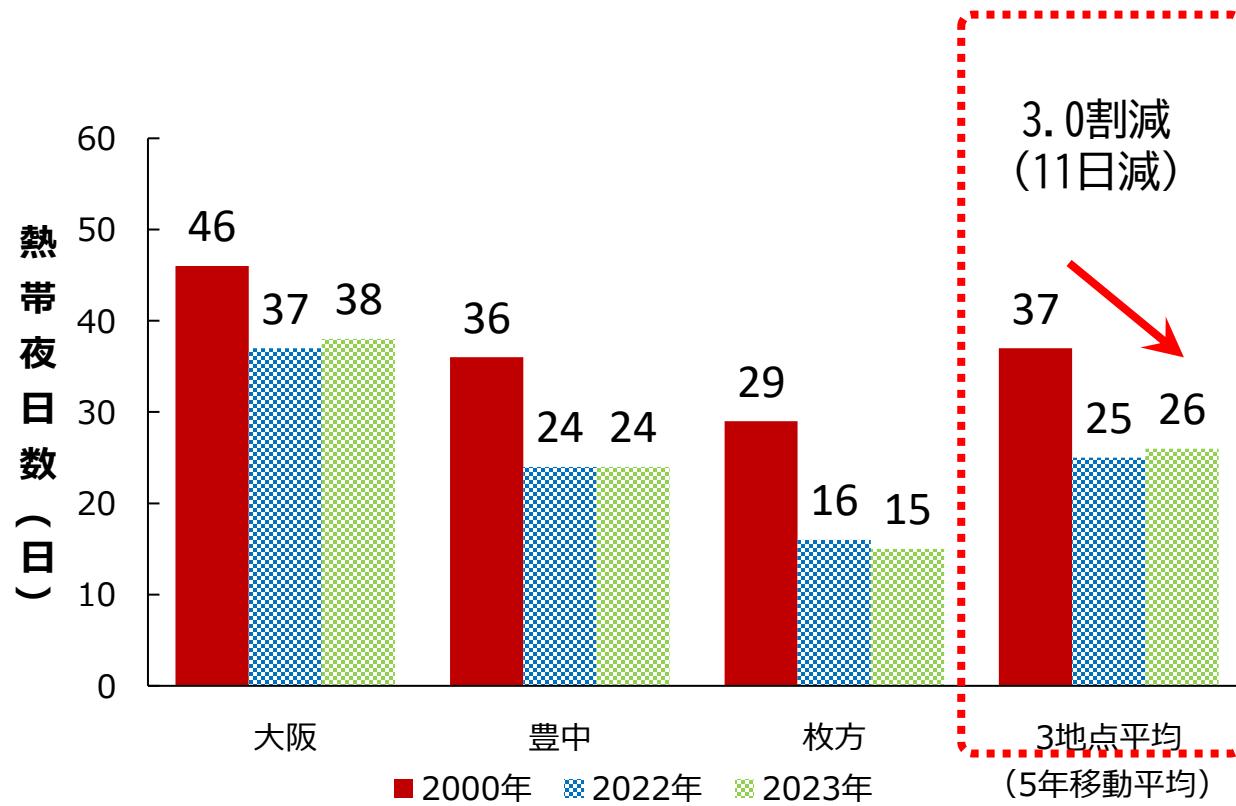


図4 5年移動平均値の差を地球温暖化の影響として除外した場合の熱帯夜日数の比較(気象庁データより大阪府作成)



2. 計画に基づく取組の状況

○ヒートアイランド対策指標に基づく実施率

ヒートアイランド対策による大気熱負荷量変化のシミュレーションを①～⑧の取組指標を用いて実施。

項目		単位	2000年 (基準年)	2022年	2023年	2025年(目標年) の参考値※3
人工排熱	①省エネ活動	実施率 (%)	17.2	36.5	34.1	86.7
建築物および その敷地	②高反射塗装・瓦	普及率 (%)	-	8.4	9.0	13.8
	③屋上緑化		-	0.2	0.2	0.2
	④壁面緑化		-	0.05	0.04	0.04
	⑤太陽光パネル		-	3.6	3.9	5.4
地表面対策	⑥透水性・保水性舗装(道路)	普及率 (%)	-	2.2	2.3	3.2
	⑦高反射舗装		-	0.03	0.03	0.03
	⑧緑化(低・高木緑化)	緑被率 (%)	14	14	14	20

①Qネットアンケート、②高日射反射率塗料の出荷量推移(日本塗料工業会)、③④全国屋上・壁面緑化施工実績調査(国土交通省)、⑤府HP、⑥透水性・保水性舗装施工実績(府内市町村)、⑦遮熱性舗装施工実績(路面温度上昇抑制舗装研究会)⑧府環境白書の資料より推計  
 ※3 シミュレーションにおいて目標を達成する場合の各項目の参考例

○計画に基づく市内の取組

計画で掲げた取組	2024(令和6)年度の主な取組
人工排熱の低減	○おおさか気候変動対策賞の実施 〔受賞事業者：5事業者(緩和分野4件、適応分野1件)〕……………【図5】
	○おおさか気候変動対策賞特別賞(愛称：“涼”デザイン建築賞)の実施〔特別賞：5点〕……………【図6】
	○おおさか環境にやさしい建築賞の実施〔大阪府知事賞：1件、部門賞：4件〕
建物・地表面の 高温化抑制	○事業者向け及び市町村職員向けエコドライブ講習会を実施
	○森林環境税の活用による暑熱環境改善設備の設置 〔実施件数：3件〕
都市形態の改善	○透水性舗装の整備 歩道〔施工実績：(府)5,355㎡〕
	○みどりの風促進区域における緑化推進〔公共緑化：25本〕
	○大阪府営公園マスタープランに基づく、多様な自然とふれあい、都市の環境を保全する公園づくりの推進 〔2024年度末における府営公園開設面積1,009.9ha〕



【図5】おおさか気候変動対策賞(緩和分野)(優秀賞)グリコマニファクチャリングジャパン株式会社 大阪工場



【図6】おおさか気候変動対策賞特別賞(愛称：“涼”デザイン建築賞)(特別賞5点の1例)エア・ウォーター 健都

## 目標 2 の進捗状況

○計画に基づく庁内の取組

計画で掲げた取組	2024（令和6）年度の主な取組
適応策の推進	○府政だより7・8月合併号において熱中症予防普及啓発や、大阪府公式X(旧Twitter)、大阪府公式Facebook、大阪府TV、健活おおさか推進府民会議メールマガジンにおいて注意喚起
	○教育関係者向けに1回、高齢者に関わる方向けに1回の熱中症対策をテーマとしたセミナーを実施 ○「気候変動と防災」をテーマとしたセミナーおよび市町村担当者向けの気候変動適応セミナーを実施
	○事業者との連携による各種媒体を通じた熱中症予防普及啓発 〔デジタルサイネージで動画放映約900店舗【図7】、啓発チラシ、啓発ポスター、アプリを通じた注意喚起 等〕
	○府ホームページにおいて「環境省公式LINEアカウント」や「暑さ指数及び熱中症警戒アラート等メール配信サービス」の登録促進
	○暑さマップの涼しいスポット公開〔日本ヒートアイランド学会が作成した暑さマップ（携帯アプリ）に「都市緑化を活用した猛暑対策事業」で整備した箇所を掲載〕
	○猛暑の際に外出先で暑さをしのげる涼しい空間（クールオアシス）を民間事業者（薬局・コンビニ・スーパー等）に提供いただく「おおさかクールオアシスプロジェクト」を実施（協力施設・店舗数 2,100軒） ○クールオアシス及びクーリングシェルターを一つにまとめた「OSAKAひんやりマップ」を公開（スポット掲載3,097カ所、総アクセス数120万件）



【図7】大阪府×大塚製薬(株)×ファミリーマート(株) デジタルサイネージ

## 気候変動対策部会における点検・評価結果

「おおさかヒートアイランド対策推進計画」の進捗状況及び、今後の推進方針としては、

- ・計画進捗評価手法による熱帯夜日数（5年移動平均値の回帰推定値による地球温暖化の影響除外）は、**基準年の2000年から比べて0.8割（3日）の増加となっており、目標に達していない。**なお、計画進捗評価手法については、ここ数年の日本の夏の急激な気温上昇の影響で、地球温暖化の影響を十分に除外できていない可能性があると考える。
- ・昨年度の環境審議会において、近年の気温上昇は顕著であり、ヒートアイランド現象と切り分けることが困難なほど地球温暖化の影響が拡大していることから、今後は、**地球温暖化対策と一体的に施策・事業を進めていくことが必要と判断**され、今年度で計画期間が終了する**本計画を「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に統合**し、夏の暑熱環境の改善に向けた取組を引き続き推進するとともに、暑さから身を守る適応策をより一層、推進していく。

ことを確認。